

## 日本は観光立国を目指すことで立ち位置を明確にし 世界平和構築の先陣を切るべき

政府の発表によれば、2024年の年間来日観光客の数が3700万人を突破しました。コロナ禍になる前を上回る急激な増加で、石破政権は即座に2025年の目標を6000万人としたいと発言しています。

時あたかも4月13日に「2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）が、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに始まったところです。

今こそ「関西は面白い、楽しい、美味しい」を訴求し、日本全国どころか世界に知れ渡っている『くいだおれ』に象徴される関西の強みともいえる『おいしい』文化だけでなく、かねてより申し上げている「美しい日本」、「安心・安全な日本」を目指すことによって、結果的に観光客数の増加が達成できるのではないのでしょうか。

戦後80年、平和を維持し続けてきた日本だからこそ、海外から来日する観光客の皆さんが安心して日本での時間を過ごすことができるのです。

もちろん、オーバーツーリズムの問題もありますが、それこそ日本人自身が『おもてなし』の心を大切に、心のこもった対応で日本の素晴らしさを伝えていくことが大切なのではないのでしょうか。

観光立国を成就させるためには、政府のみならず国民も一体となって対応していくことが大切だと思います。

令和6年の訪日外国人旅行消費額は、速報値で8兆1395億円となり、前年と比べて53・4%増となりました。2025年には外国人観光客の消費が約20兆円に達すると予測もあります。

ちなみに2019年のインバウンド消費の経済波及効果は、名目GDPの0・9%に相当したとされています。

世界に目を向ければ、ロシアによるウクライナ侵攻や、イスラエルとハマスの対立など、まだまだ厳しい一面もあります。

何よりも世界が平和でなければ、日本が標榜する観光立国も成り立ちません。

日本は観光立国を目指すことで、世界におけるその立ち位置を明確にし、世界平和構築の先陣を切っていくことを期待します。

日本が観光立国を目指し、6000万人どころかそれ以上の海外からの観光客を迎え入れることが可能になるということは、結果的に世界に平和の礎を築いていくことに繋がるのではないのでしょうか。

石破総理には、単に数字ばかりを追いかけるのではなく、崇高な志をもって世界平和に繋がる「観光立国」を目指すことを期待します。

本誌主幹

大中昔一